

2023年2月27日

報道機関 各位

## 共創の場形成支援プログラム 地域共創分野/本格型 への昇格が決定

「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点

長崎大学が代表機関として応募した『「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点』が、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下 JST）の「共創の場形成支援プログラム」の地域共創/本格型に採択されたことが、2023年2月14日、発表されました。

長崎大学と参画機関は、2021年10月に、本拠点の提案が地域共創分野/育成型に採択されて以来、水産業の再生とそれによる地域活性化に向けて、養殖における「作業を変える」「育て方を変える」「働き方を変える」をテーマに省力化、省人化に向けた技術の開発や環境負荷の低い技術の開発、ビジネス、経営構造の改革などに取り組んできました。今回は、これらの取り組みへの成果が認められ、本格型への昇格が決定したものです。

本格型では、今後、最長10年間にわたり産官学が連携し、本事業のビジョンである「養殖 DX の推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現」を目指します。養殖事業を環境負荷の低い持続可能な産業として確立させ、日本人の魚食の回復と世界中の人々の健康に貢献する持続的水産食料生産の拠点となることで、水産県長崎県の躍進を図っていきます。

### 【プロジェクトの概要】

※ 添付資料も参照ください

「共創の場形成支援プログラム」とは、大学等が中心となって未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムです。

本拠点では、ブリ養殖を柱とした新たな養殖産業を長崎の地から創出し、それによって雇用が生まれ、若者が定着し活気づく地域の構築を目指します。ブリ養殖の技術を高度化し、海外への「JAPAN 鰯」販売も視野に入れた生産販売体制を整えるためには、最新の水産学、海洋工学、社会科学からの総合知を導入した分野横断的イノベーションが必要です。「作業を変える」、「育て方を変える」、「働き方を変える」の3つの視点から養殖業の産業化を推し進め、持続的水産食料生産の拠点を長崎に形成することとしています。

プロジェクトリーダー：征矢野 清（長崎大学 海洋未来イノベーション機構 機構長・教授）

- ▶代表機関：国立大学法人長崎大学
- ▶幹事機関（自治体）：長崎県
- ▶幹事機関（企業等）：協和機電工業株式会社
- ▶参画機関（大学等）：学校法人長崎総合科学大学、学校法人活水学院活水女子大学、  
国立大学法人高知大学
- ▶参画機関（企業等）：長崎市水産センター、日東製網株式会社、株式会社島津製作所、  
京セラ株式会社、KDDI 株式会社、株式会社ジャパンアクアテック、  
株式会社極洋、株式会社シーエーシー、福伸電機株式会社、東京産業株式会社、  
古野電気株式会社、フィード・ワン株式会社、十八親和銀行、  
東京海上日動火災保険株式会社

【 本リリースに関するお問い合わせ先 】

長崎大学 研究国際部 研究推進課

TEL : 095-800-4123 E-mail : kensien@ml.nagasaki-u.ac.jp

**拠点名称：「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点**

<b>代表機関</b>	長崎大学	<b>プロジェクトリーダー</b>	征矢野 清 長崎大学 海洋未来イノベーション機構 機構長／教授
<b>幹事自治体</b>	長崎県	<b>幹事機関</b>	(企業等) 協和機電工業株式会社
<b>参画機関</b>	(大学等) 長崎総合科学大学、高知大学、活水女子大学 (企業等) 長崎市水産センター、日東製網株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、KDDI 株式会社、株式会社ジャパンアクアテック、株式会社極洋、株式会社シーエーシー、福伸電機株式会社、東京産業株式会社、古野電気株式会社、フィード・ワン株式会社、十八親和銀行、東京海上日動火災保険株式会社		

**プロジェクトの概要**

本事業は、「養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現」をビジョンに掲げ、ブリ養殖を柱とした新たな養殖産業を長崎の地から創出し、それによって雇用が生まれ、若者が定着し活気づく地域の構築を目指す。ブリ養殖の技術を高度化し、海外への「JAPAN鰯」販売も視野に入れた生産販売体制を整えるためには、最新の水産学、海洋工学、社会科学からの総合知を導入した分野横断的イノベーションが必要である。「作業を変える」、「育て方を変える」、「働き方を変える」の3つの視点から養殖業の産業化を推し進め、日本人の魚食の回復と世界中の人々の健康に貢献する持続的水産食料生産の拠点を長崎に形成する。

**「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点**

**ビジョン：養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現**

<b>DXレベル 1</b> ターゲット 1：「作業を変える」 生産者の作業負担を軽減する 養殖技術開発	<b>DXレベル 2</b> ターゲット 2：「育て方を変える」 海の生物と環境への負荷を軽減する 養殖技術開発	<b>DXレベル 3</b> ターゲット 3：「働き方を変える」 若者が魅力を感じる 水産プラットフォームの構築
研究開発課題1 高度管理型養殖システムの開発  ・沖合養殖システム ・海中ロボット (AUV) ・養殖クラウドマネジメントサービス ⇨沖合養殖システム構築	研究開発課題 2 環境保全型養殖技術の開発 ・新技術によるブリ種苗生産技術 ・新たな疾病予防技術 ・効果的給餌技術 ・ブリ種苗センター ⇨人工種苗を用いた生産体制構築	研究開発課題 3 経営構造の改革と水産業活性化の推進  ・ビジネスモデルの策定 ・産地マルシェ設置 ⇨「JAPAN鰯」販売体制構築

